

【事業概要】

かご網による底物漁場調査（本島近海）

（水産海洋研究費（県単独事業））

北朋紘*，太田格，柳澤和彦

本州以北では、底びき網漁業やかご網漁業によるホッコクアカエビやアカザエビ等の深海性エビ類の利用が盛んである。これらの深海性エビ類は単価が高く、資源価値が極めて高いが、沖縄県海域では深海域の底生生物を対象とした漁業が行われておらず、深海性エビ類を含む底生生物資源は未利用状態である。

そこで、深海性エビ類の漁場開発および資源の有効利用を目指し、かご網を用いた漁獲調査を実施した。令和5年度は、水深400～1,200mにかご網を設置し、新規資源として有望な種の選定に向け、種類ごとの生息水深と漁獲効率の把握を目的に調査を実施した。

材料及び方法

2023年9月19～20日に東村沖に25個、2023年11月6～8日に慶良間南方海域に65個のかご網を投入し、漁獲調査を実施した。投入したかご網は、12～24時間後に引揚げた。漁獲物は氷冷して持ち帰り、甲長、体長、体重を計測、計量した。第2遊泳肢の形状により性別別し、抱卵の有無を記録した。

結果及び考察

調査の結果、11種の深海性エビ類（タラバエビ科、ミカワエビ科）が漁獲され、内5種の名称が不明であった（図1）。漁獲量は、ミノエビが最も多く（3.5kg）、次いでアカモンミノエビ（1.1kg）、マルゴシミノエビ（0.7kg）であり（図2）、新規漁業対象種としてミノエビが有力と考えられた。

生息水深は、種ごとに異なり（図3）、ミノエビの漁獲水深が最も浅かった（平均440m）。今後、漁場選定の基礎情報としての活用が期待される。

今後の調査では、水深400m以浅における漁獲調査、海底地形探査装置を活用した水平分布調査、成長・成熟等の資源特性の解析を実施予定である。



図1 漁獲されたエビ類

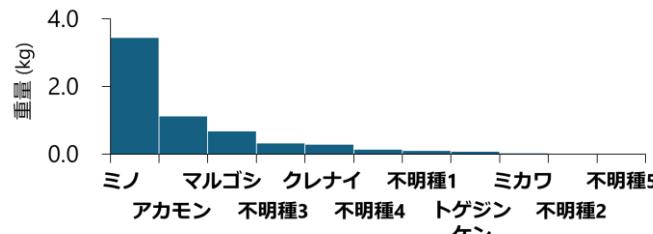


図2 エビ類各種の漁獲量

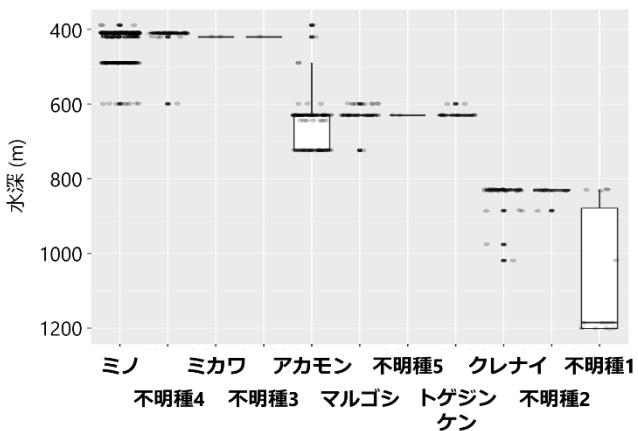


図3 エビ類各種の生息水深